京都社会人大学校

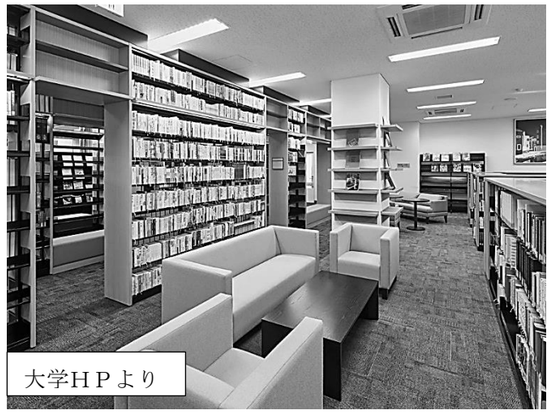
北近畿校 通信

第 11 号　2018 年 12 月
北近畿校運営委員会
事務局発行

ドンドンご利用ください！

福知山公立大学 メディアセンター（図書館）

ひと言感想の中に、「公立大の図書館（メディアセンター）を、利用したい」というご希望がありました。早速大学に問い合わせましたところ「大歓迎！どんどんご利用ください」とのことです。受付カウンターに、運転免許証、健康保険証などを持参すれば、利用カードを作っていただけます。新規に登録する際に 300 円が必要です。また、福知山市立図書館の利用カードをお持ちの方はそのカードで利用できます。蔵書は 68,000 冊。ルールを守って、有効に活用しましょう！


大学ＨＰより

通学がちょっと辛くて…

「バスが大学の近くに停車してくれるとありがたいのですが…友人を誘いたくても、あの坂の辛さを思うと高齢者にはちょっと！平和公園での下車は遠いので、つい坂を登って来ています。」という要望が届きました。

運営委員会で解決できる問題ではないですが、公共交通について大学や地元の方の要望などあるのなら、一緒に何か取り組めないか…？結構切実な問題ですよね。

「北近畿校運営委員会」で
あったかぜんざいの店

12/1　公立大学学園祭［福桔祭］に参加しました！

ちょっと曇り空の日でしたが、福知山駅北口広場で開催された公立大学の学園祭に、「社会人大学校のぜんざいのお店」を出店。自家製のお餅をその場で焼いて入れるという贅沢なぜんざいです。用意した 125 食を完売。学生さんたちとともに楽しい一日を過ごしました。

ステージでは福知山音頭の披露やバンド演奏

第７回 自然科学講座 ―
人工知能（ＡＩ）はどこまで進むのか、人間を抜くのか

１１月２２日／講師：仲谷善雄氏

従来の電子計算機は、記憶したことを忘れることはない。ＡＩは百科事典の２億ページ分の情報を記憶し、キーワードと組み合わせ例を作成する。その結果として小説を書いたり新聞記事を書いたりすることが可能になったが、ＡＩは意味を分かっている訳ではなく単なる記号を並べていることになるので、人間がストーリーを与えなければならないということである。ＡＩはこれからも進化すると思われるので、人工知能が人間を超える日が来るかもしれない。その時、人間に残る仕事は、高度スキルを要する仕事と非熟練労働者を使う方が安い仕事のみ、という恐ろしい予測もある。講義後の質問でも、人間がＡＩにとってかわられたり悪用される心配はないのかというのもあった。それに対して、ＡＩを利用する意義を学び原理をつかむことや、ＡＩの出したものに対する判断力、使い方、最終的な判断は人間がすべきだと語られた。データ処理に関して、量とスピードに人間は全く太刀打ちできないので、ＡＩと差別化の教育が重要になってくるが、現状ではそれができていないと警鐘を発せられていた。人間がＡＩに管理されることはあってはならないが、そのＡＩを管理するのは人間であるべきで、それが一部の人間だけであってもならない。

Ａｉ…その人たちの人間性、哲学が必要と考えますが、私などそのレベルにはありません。残念ながらひょっとしてＡＩと共に自滅するしかないのか？

講座を聞いてみて、コンピューターのこと少しわかった気がします。ＡＩと人間の差別化はできるはず。「よく見、よく読み、よく聞き、よく書き、よく話す」ことを少しでも実践すること。（聞いても読んでもすぐ忘れてしまうのですが）これまで通りガンバルことです。

早、師走。２０１８年度の講座は今月が最終回です。
各８回の講座、皆勤の方も結構いらっしゃるようです。すばらしい！！
せっかく時間とお金をかけて通った学校。「学んでよかった」「面白かった」「役に立った」と思っていただけたらうれしいです。
毎回毎回、ひとこと感想に記入ご協力いただき、ありがとうございました。受講生みんなで作ってきた学校です。みなさんの声をお聞きして、来年度もより充実した講座になるよう、工夫していきたいと考えています。
新年度２０１９年は５月開講です。詳しい講座案内は、パンフレットができ次第、みなさまにご案内いたします。ぜひ新しいお友達を誘って受講頂きますよう、お願い致します。「平成」ではありませんね、㊙㊙元年にお会いしましょう。

みなさん 良いお年を

「やってみよかな」
声かけてくださいね！

引き続き、まだまだ、ず～っと
新 運営委員さん 募集中！

11月の各講座の概要と、ひとこと感想から（感想は一部を抜粋したものもあります ご了承ください）

第７回 時事問題講座 ―
消費税１０％の使い道は　日本と世界の税制

１１月６日／講師：北側寿一氏

わかりやすい口調で現状を教えていただきました。

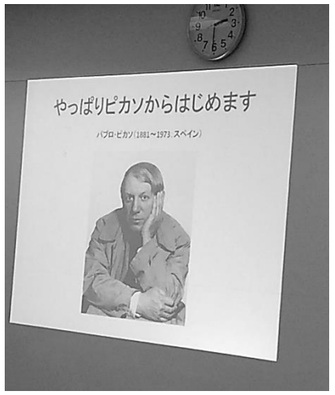
価値ある部分は受け入れながら参考にさせて頂きましたが、自衛隊に関する講義は全く受け入れ難かった。一般的なマスメディアが報じない情報が欲しい。

安倍政権が強引に進めている来年１０月の消費税 10%。「いよいよやるのか!?」と考え始めているやさき、あなたはどう考える①実行する、②実行しない！と問いかけられたて始まった講義。消費税にとどまらず世界との比較で日本の財政問題の深いところまでひも解き、政治的判断まで迫られた講義でした。

消費税のそもそも論、平成元年、3%から始まった日本の消費税の歴史を世界との比較であらためて認識。さらに、「軽くならなくても軽減(税率)?」など今回 10%の「目玉」と混乱、消費税増税しなくても日本の財政は「破綻」はしない?　「人口構成予測」や仕事がなくなるのに消費税は必要か?などを勉強しました。そして、消費税は「国政選挙の最大鬼門」という歴史の中で、安倍政権の最大の狙いと政治的駆け引きを考えさせられた講義でした。運動しないとどっちもやられますがね！

第７回 美術鑑賞講座 ―
現代の美術（１）　近代から現代へ、世界の美術

１１月１２日／講師：真鍋宗平氏



現代美術の前編でした。現代美術の現代とはどの時代かというのは色々な意見のあるところでしょうが、現代美術といえば「やはりピカソから」始める事になるだろうなというのが講師の考えでした。その理由は、現代美術と呼ぶにふさわしい、いろいろな試みをピカソがどんどんやっていった事にあるとのこと。特定のパトロンを気にすることなく、自分の描きたいものをその時代の進展のままに描くことができる。そういう時代の絵だからこそ、現代美術と言えるのだろうと思いました。ただし、そこには迷路もある。例えば、作者の意図がない作品などが出てきて、「結局、現代美術は分からない」と言われる様になる。あるいはそういう作品も出展される様になる。そして途方もない値段がつき、これが一人歩きするようになる。こういう時は、一人一人がその作品と向き合って、これにはこれこれの価値があると、確信を持つことの大事さを力説されました。

作品の値段と価値についての話が興味深かったです。他の評価や市場の価格などは気にせず、自分の目で作品を素直に楽しむ、ということを大事にしたいと思いました。

二度の大戦を経て伝統的形式的美にとらわれない、個性の創出、心象、社会性を表現する現代美術の生誕が興味深く学べました。今後、対象作品との対話を心掛け、美と内実をつかみとる力を養っていきたく思います。

少ない時間ですがとても充実感があって、楽しいです。

絵に億の値がつくことの不思議…

第６回 歴史講座 ―
森鴎外　「かのように」

１１月１４日／講師：井口和起氏

明治時代は日清・日露と２度にわたって他国と大きな戦争をおこしましたが、その度に国家の財政規模は２倍に膨れ上がり、戦争が終わっても元に戻ることはありませんでした。当然、庶民の生活は税金にあえぎ苦しく騒動は広がり、知識層の中からも政府のいうところの"危険思想"が生まれてきました。

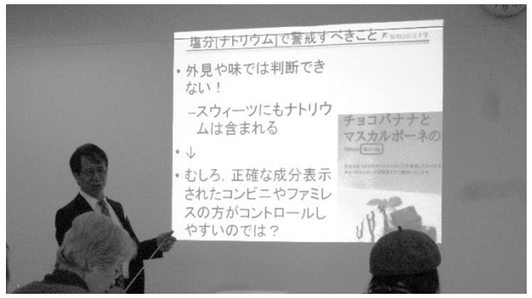
当時の支配層の一人である山県有朋はこれを危惧し、民衆が"危険思想"におちいらないため、陸軍の医療衛生部門のトップでもあった鴎外に「かのように」を書かせたのではないかといわれています。

「かのように」は知識層や学生に向かって書かれているので、内容は哲学問答のようになっています。しかし、内容は山県の要請に答えたといえるものだろうか。「黔首(けんしゅ)を愚にしなくてはならない。それは不可能だ」と述べているところなどをみていると押さえつけるだけではダメだと、やんわり諭しているようにも見えます。

鴎外を通して、明治という時代を見るとき、漱石と同様日本の将来の危うさを感じとっていたのかも知れません。（黔首＝庶民のこと）

教授の「鴎外自身が（かのように）の信者であったかどうか…立場上…」との言葉が重かった。私の中では始まりである！

高校生の頃、鴎外の代表作としてとりあえず覚えた「かのように」。初めて原文を読みました。一人で読んでもわかりませんでしたが、井口先生の解説で時代背景もわかり、文章の趣旨がわかりました。ただ、内容そのものは理解できませんでした。自己欺瞞のように思えます。これで山県は納得したのでしょうか。



商品の成分表示はあんまり気にしていなかったので、とても参考になり、今後気を付けてみようと思います。チリも積もれば毒になる、ということですね。

「降圧剤を処方するほどでもないが高血圧気味」な私にとって、減塩は至上命題。「Nacl のNa を減らしなさい、Na に着目しなさい」という新奇の提案に目からウロコ。

資料の写真は黒ベタで全くわかりません。印刷方法を考えていただきたい。

せっかくの資料が、これではちょっと残念ですね。印刷の仕方なのかな？　改善したいところです。
― 運営委員会

第７回 健康講座 ―
「健康寿命をのばすには」

１１月１６日／講師：岡本悦司氏

「健康寿命延伸のへの秘訣は減塩である」。国民健康・栄養調査では、日本人の塩分摂取量は年々減少しつつあるが、それでも塩分過剰と言われている。ＷＨＯは、塩分に含まれるナトリウムの摂取量を １ 日３ｇにすることを推奨している。これは塩分に換算すると7.5ｇであるが、ナトリウムはスウィーツ等にも含まれるから管理はなかなか難しい。外食が多いと健康的な食事が維持できないと思われているが本当か？　むしろ、コンビニやファミレスを利用して成分表示をしっかりチェックした方が、塩分もコントロールできるのではないか？ナトリウムは具よりスープにたくさん含まれている。和定食には必ず味噌汁がついてくるが、これはナトリウムの大量摂取につながる。

「家庭で食べる和風料理が健康食」という多くの人が抱いているであろうイメージを、ひっくり返すお話でした。また、きっと出汁にこだわっている店主のうどんやラーメンは、汁の最後の一滴まで飲み干したい― 健康で長生きしたければ、この欲望に打ち勝つ強い意志を持たなければいけないようです。